

令和元年度三原市との地域戦略協働プロジェクト途中報告

三原市の地域課題として、「地域ポイント連携による地域経済の活性化手段の提案と利用促進のための情報発信の検討」が提案された。そこで、購買等を通じて、三原市内の地域内で利用を限定した地域ポイントを付与する現在の仕組みを再度検討するとともに、全国で利用されているポイント等の変換の仕組みを調査し、三原市内や全国からのポイント利用を通じて、地域内での利用を循環させ、地域経済の活性化の仕組みを構築することを目的として、三原市の三原うきしろポイント (<http://ukishirowaon.com/>) について調査を行った。三原うきしろポイントは、現金もしくは電子マネーWAON による商品購入で、100 円につき 1 ポイントがたまり、加盟店での商品購入の際 1 ポイント 1 円として割引が可能となる地域限定 WAON を用いた仕組みである。WAON カードを使用しているが、FelicaID を使用したポイントシステムとなっており、電子マネー決済システムを利用しているわけではない。

地域限定 WAON を購入し、その Felica に保存されているデータを調査した。独自のデータを書き込める領域があったため、同等の NFC 認証システムを Raspberry パイ上で開発した。理論的には、この Felica カードを使用した独自のポイント管理システムを構築することが可能であることが分かった。しかしながら、セキュリティシステムや Felica に関連する特許などの関連で、独自にポイントシステムを運営・管理するのは、コストや人材面において困難であることが分かった。

現在の Felica システムを利用する以上、専用端末やシステム運営費などのコストが必要となる。安いコストで運営するのであれば、Felica ではなく NFC-A や B などの国際的なタイプを利用したカードに乗り換え運営するなど他の方法を検討することが望ましいと考えられる。

このシステムを開発は本学地域基盤研究機構高度人工知能プロジェクトセンター鎌田特命講師が開発し、検証を学生が行った。

今後は、他のポイントシステムやマイナンバーカードについて、調査を行う。

